農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とっとり農業戦略課 研究･普及推進室　まとめ
平成28年2月15日　現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	麦	･一部を除いて茎立期に入っている。現地の10月播種においては2月16日時点で幼穂長が9ミリ、葉令は9葉となっている。 ･農試の11月播種においては、1月下旬が茎立期（下位節間長が20mm以上：例年2月下旬以降）で、生育が1ヶ月以上早い。 ･茎数は多めに推移しており、寒波の影響で、葉色がやや淡くなっている。	･1月下旬の寒波により、幼穂への影響と遅れ穂の多発、赤カビ病の発生が懸念される。 ･穂肥については、穂肥時期を1回目をやや早め、2回目を主稈葉数の推移を注視しながら止葉抽出前施用を徹底する。
果樹	果樹共通	･平年並みに、せん定作業中が進んでいる。 ･雪害は発生していない。	･引き続き雪害に注意する。 ･自発休眠の明けは約2週間遅れている。今後の気温の動向に注意し、霜害対策を徹底する。
野菜	白ねぎ	＜秋冬ネギ＞ ･西部地区では2月5日時点で、抽台が確認されている。ただし、最も生育が進んだ株の抽台であり、現時点の出荷への影響はない。 ･収穫遅れとならないよう、早めの収穫が呼びかけられている。 ＜春ネギ＞ ･順調に生育している。 ･さび病の発生が見られ、防除が行われている。 ＜夏ネギ＞ ･トンネル作型順調に生育している。 ･育苗中の苗も概ね順調に生育している。	･秋冬ネギは収穫遅れにならないよう早期収穫に努める。 ･春ネギについても抽台の早期化が予想されるため、肥培管理に注意するとともに、花茎の伸長具合を確認し、早めの収穫を心がける。 ･全作型でさび病、春ネギや夏ネギでは小菌核腐敗病の防除を徹底する。
	ブロッコリー	＜秋冬どり＞ ･暖冬の影響により前年12月から1月にかけての出荷量が大幅に増加し、西部地区では秋冬どりの出荷進捗率が8割を超えた(1月末)。 ･現在は寒波の影響もあり、生育は緩慢であり、出荷量も減少している。 ･1月末の寒波の影響により、一部の品種で花蕾の黄化等の品質低下が見られ、秀品率がやや低下している。 ＜初夏どり＞ ･育苗は概ね順調に経過している。	･秋冬どりの出荷は終盤を迎えており、大きなピークもなく順調に進む見込みである。 ･初夏どりの育苗管理について、気温の寒暖差が大きく、天候状況にあった換気管理を徹底する。
	ラッキョウ	･福部地区の生育調査では、分球数は平年並み、葉枚数が平年以上と順調に生育している。	･肥培管理や白色疫病の防除を徹底する。
	施設品目	･スイカをはじめ、メロン等の定植準備が進んでいる。	
花き	シンテッポウユリ	･今シーズンから箱育苗主体に取り組む生産者もあり、セル育苗、地床育苗ともに順調に生育している。 ･発芽率は概ね70%前後であるが、80%以上の発芽率となっている生産者もある。 ･中国産種子が入っているが、今のところ発芽や生育等に問題は認められていない。	･子葉展開揃いから定期防除を行い、病害虫防除、特に葉枯れ病防除を徹底する。 ･過湿に注意する。1週間に1回程度、かん水代わりに液肥与える。 ･日中は換気に努め、晴天時の急激な温度上昇には特に注意する。 ･暖冬傾向にあり、生育が促進される可能性が高い。
	ストック	･1月下旬の寒波により、ほ場にあるストックが凍結した。被害は比較的軽微で等級落ちはあるものの予定どおり出荷された。一部に中程度の凍害が発生している。 ･その後も氷点下の低温に遭遇しており、複数回凍結しているほ場も見られる。	･彼岸までにはほぼ収穫終了し、彼岸出荷は極少量の見込みである。 ･今後も凍結の恐れがあり、対策が必要である。なお、凍結した場合は解凍されるまで換気を避け、萎れが回復してから換気する。
飼料作物	イタリアン	･標高の高い地域（大山周辺）では、積雪の下となり生育は停止している。 ･平場では、草丈20～30cm程度の生育であり、一部には葉が黄色を帯びているものも見られる。	･香取･萩原地区では、一部のほ場で草丈30cmを超えており、雪腐れが懸念される。